

# MRI検査詳細

	部品・材料	備考
禁忌	体内の電子電機部品	ペースメーカー、移植蝸牛刺激装置(人工内耳)、植込み型除細動器、神経刺激器、植込み型プログラマブル注入ポンプ(ポンプのローターが一時的に止まる)
	脳動脈クリップ	種類を確認 MRI対応の製品は問題ない 当院で昭和60年以降の手術は可能 それ以前や他院で手術したものは確認必須
	目など、決定臓器に位置する強磁性体の破片	鉄片、弾丸など 失明例あり 存在する可能性が高ければレントゲン・CTで確認
	いくつかの血管内デバイス	スワングアンツカテーテルは溶けた例あり MRIに対応していないコイル、ステント、フィルタ
	リード線 ケーブル	発熱、火傷の原因
	補聴器	見落としやすいので注意
	J-VAC サクションリザーバー	内部のスプリングが磁性体(検査時はリザーバーを外す:製品の添付文書参照)
	義肢	部品の一部に磁性体が使用されている
	カラー(虹彩着色)コンタクトレンズ	顔料に微細な金属が含まれていると充血したり目を傷つける
	尿道カテーテルのDIBキャップ	DIBキャップ キャップに磁石が使用されているのでプラスチック製の代替品に交換
	金属を含む貼付薬	火傷の原因になるためはがす ニトロダーム、ニコチネルなど
	保温性下着・赤外線下着	保温機能のあるような金属繊維の折り込まれた衣類は火傷のおそれあり
	磁石式の入れ歯	入れ歯に付いている磁気が消えるため必ず外す
医療器具	酸素ポンプ、輸液ポンプ、モニター、点滴台、針金の入ったシーネなど	
検査可	皮膚縫合用金属 止血クリップ	一般的に安全であるが、様態の変化に注意しておこなう
	脳神経外科用材料	骨弁および固定するためのワイヤ、縫合材料や小さなプレート、スクリューなどは安全といわれている : 磁力で流量調節が可能な圧可変バルブは検査後、直ちに調整が必要 MRI後に圧確認のレントゲン撮影をする場合もある
	歯のインプラント	アーチファクトの原因になるが基本的には可能 <b>磁気アタッチメント入れ歯は外す</b>
	コイル、ステント、フィルタ、オクルーダ	冠動脈ステントは術後6週間程待つ その他は材質がMRI対応しているものは可能
	頸動脈クランプ	一般に安全であるが <b>Poppen-Blaylockの製品は禁忌</b>
	心臓の人工弁	<b>Star-Edward600番以前(1970年以前)の製品は禁忌</b> 現在の人工弁は問題ないとされている
	整形外科のインプラントや材料	年代の古いものは磁性体が混在している可能性があるので注意 <b>膝の十字靭帯再建に用いられるPerfix Interference Screwは強磁性なので禁忌</b>
	子宮内避妊具 避妊 pessary	アーチファクトが出現するが安全
	陰茎インプラント	不快感を伴うものがある
	入れ墨	火傷・変色 : 頻度は非常に少ないが検査中に熱感や違和感あれば検査中止
妊婦	医師に胎児の安全性については確立されていない旨を説明し検査を施行するか確認する 原則として妊娠初期(11週)までは検査をおこなわない	

※上記以外の体内金属やデバイスはその製品の添付文書でMRIの可否を確認してください